

緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査結果

男女共同参画学協会連絡会 提言・要望委員会

目的：緊急事態宣言による・科学者・技術者への影響を把握し、今後必要とされる支援策、対応策を検討する

対象：男女共同参画学協会加盟学会（以下、学協会）に所属する学会の学会員、および社会・人文系学会など幅広い専門分野に属する研究者・技術者

方法：無記名の電子アンケート（Googleフォームアンケート）

アンケート実施期間：2020年5月15日～6月13日

2020年7月 男女共同参画学協会連絡会（copyright © 2020 EPMEWSE）

一切の無断転載を禁ず

設問1. あなたの性別を教えてください（必須回答）



図1. 年齢

総回答者数：11,112人
男性：7,882人
女性：3,140人
答えたくない：90人

設問2. あなたの年齢を教えてください（必須回答）

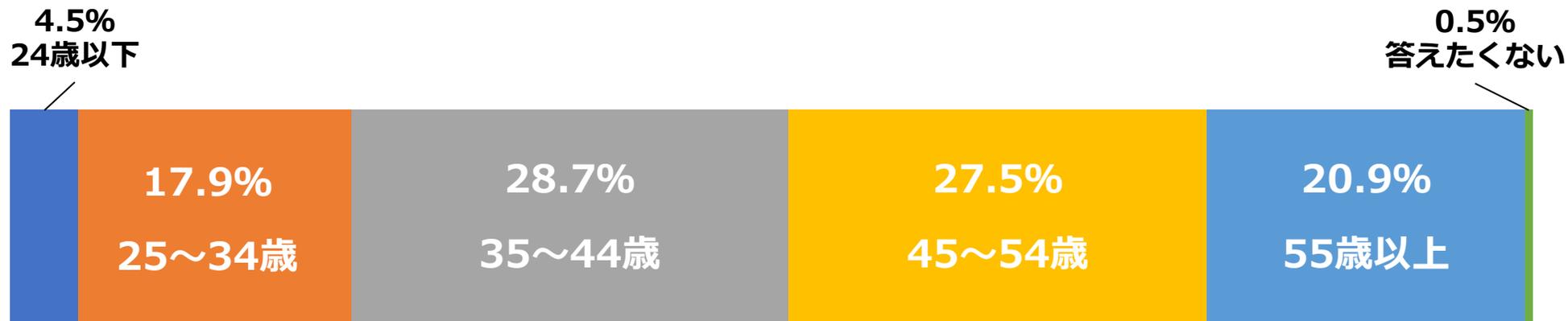


図2. 年齢分布

設問3.1 専門分野について、最も近いものを1つお選びください（必須回答）

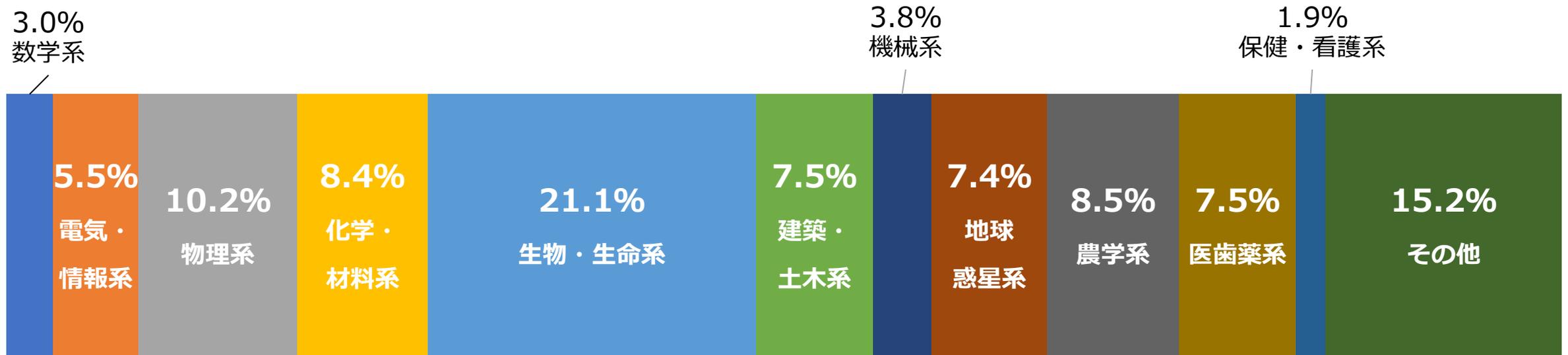


図3. 専門分野

多様な分野の科学者・技術者から回答が得られた。
なお、このアンケートは当初、本連絡会加盟学会の学会員を対象に選択肢を作成したため、人文・社会学系の研究者の多くは「その他」で回答していただいた。

設問3.2 役職名を教えてください

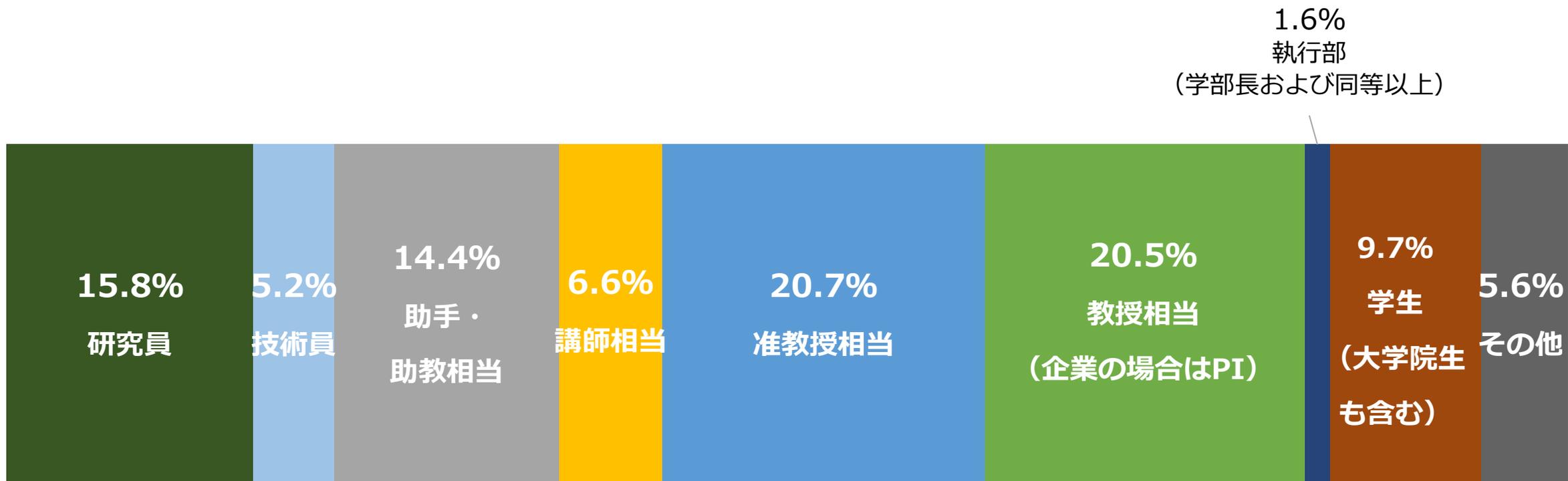


図3.2 役職

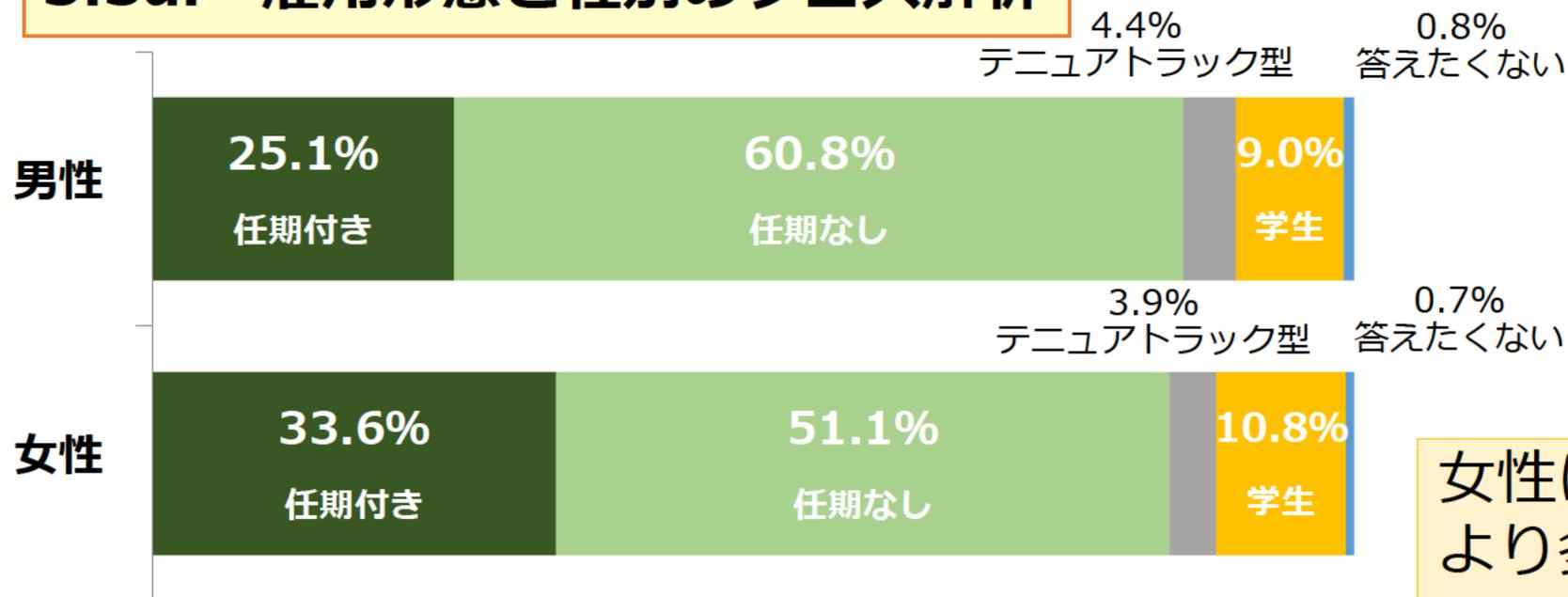
設問3.3 雇用形態を教えてください



学生には大学院生も含む

図3.3 雇用形態

3.3a. 雇用形態と性別のクロス解析



女性は任期付き職の割合が男性より多い。

図3.3a 男女別雇用形態

緊急事態宣言後の変化を教えてください
設問6. 現在の勤務状況を教えてください
(必須回答)



図6 緊急事態宣言後の勤務状況

設問7.3 現在の研究の質について
教えてください



図7.3 研究の質について

設問7.1 現在の研究に費やす時間を
教えてください



図7.1 研究に費やす時間

過半数が研究に費やす時間が減少し、研究の質が低下したと回答している。

緊急事態宣言後の変化

設問7.4 研究生活における不安はありますか



図7.4 研究生活の不安

- ・ 回答者の80.1%は研究生活に対して不安を感じている。

7.4a 雇用形態と研究生生活の不安とのクロス解析

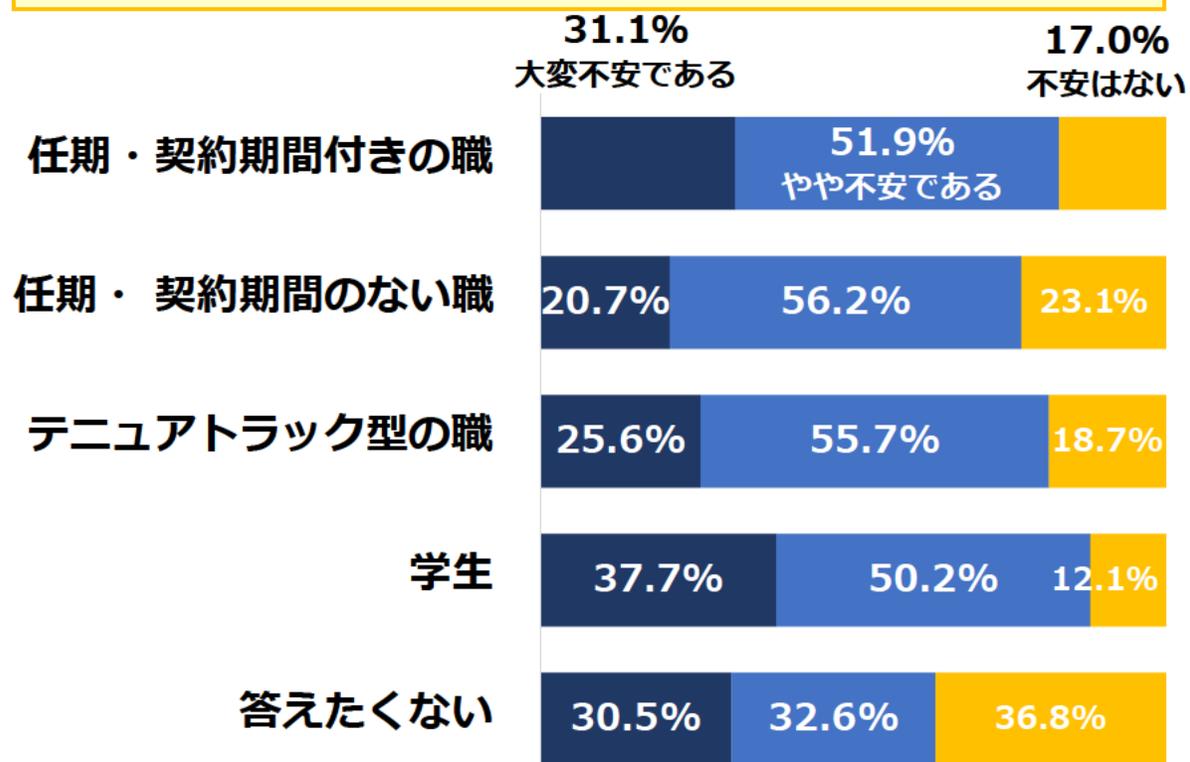


図7.4a 雇用別研究生生活に対する不安

7.4b 研究の質と研究生生活の不安とのクロス解析

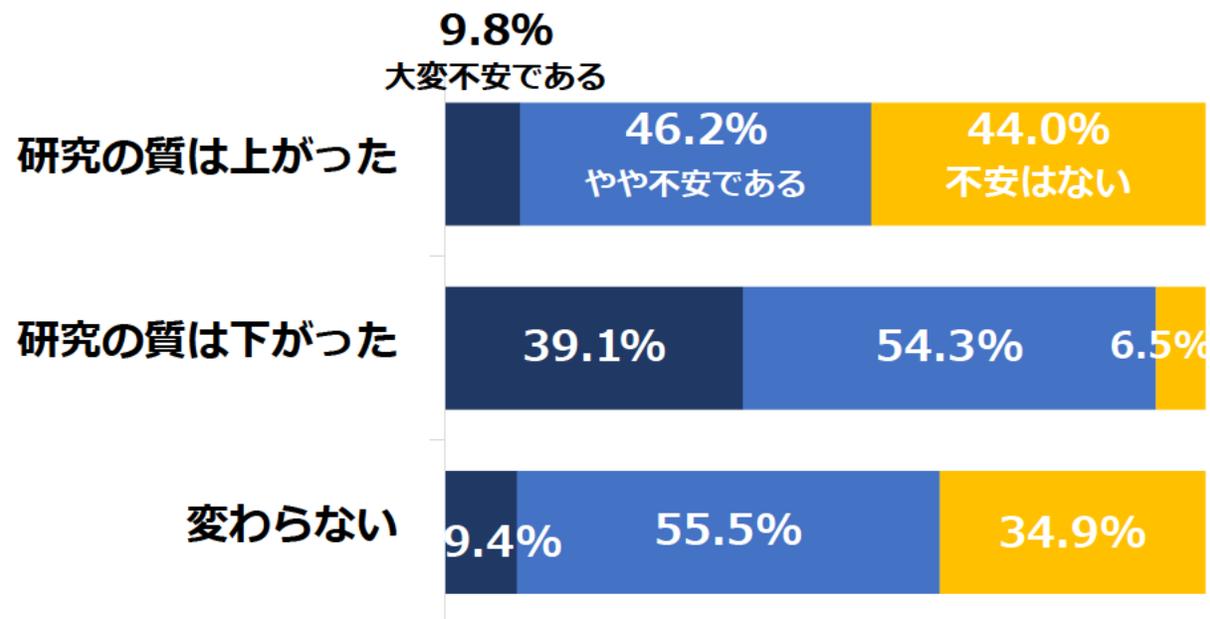


図7.4b 研究の質と研究生生活に対する不安

- 学生（大学院）の約90%が研究生生活に不安を持っており、次に任期付き職での不安が大きかった。
- 研究の質が低下したとする人々において特に不安が大きい。

緊急事態宣言後の変化

設問7.5 研究生活に不安があると答えた方は、その不安は何ですか（複数回答）

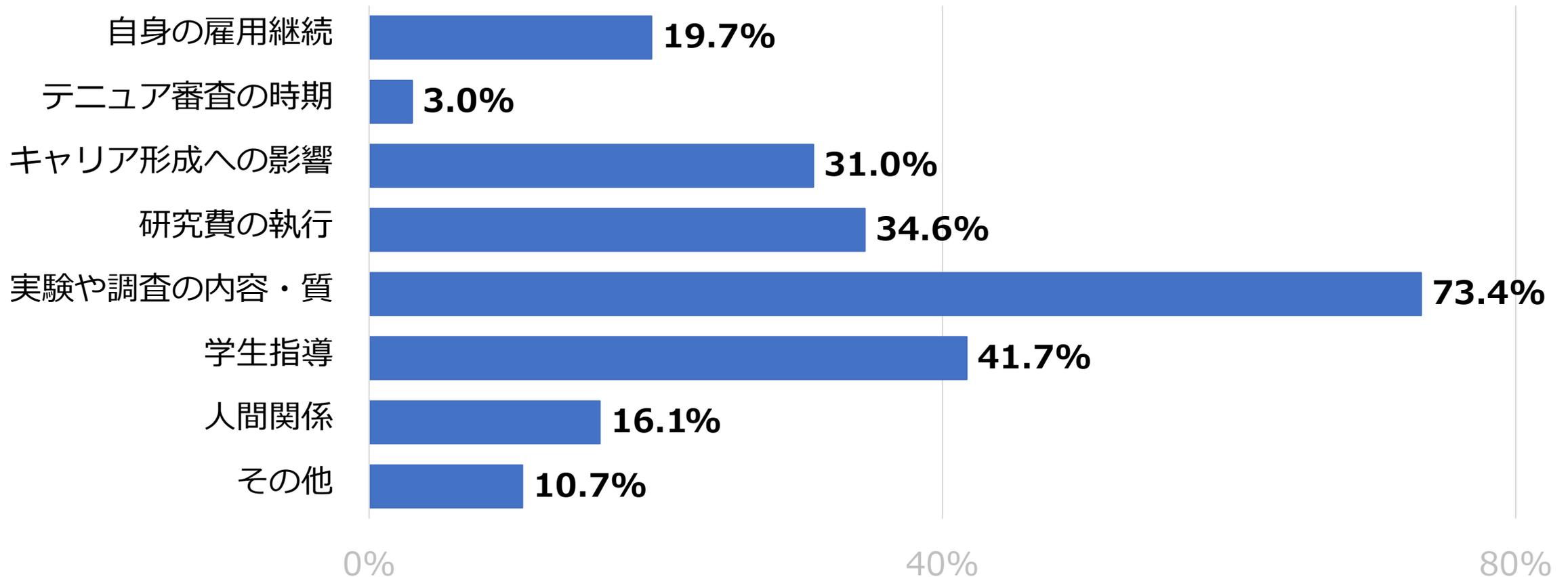


図7.5 緊急事態宣言後の研究生活に対する不安の内容（複数回答）

緊急事態宣言後の変化

7.5a 研究生活への不安（その他：5月25日までの自由記述）

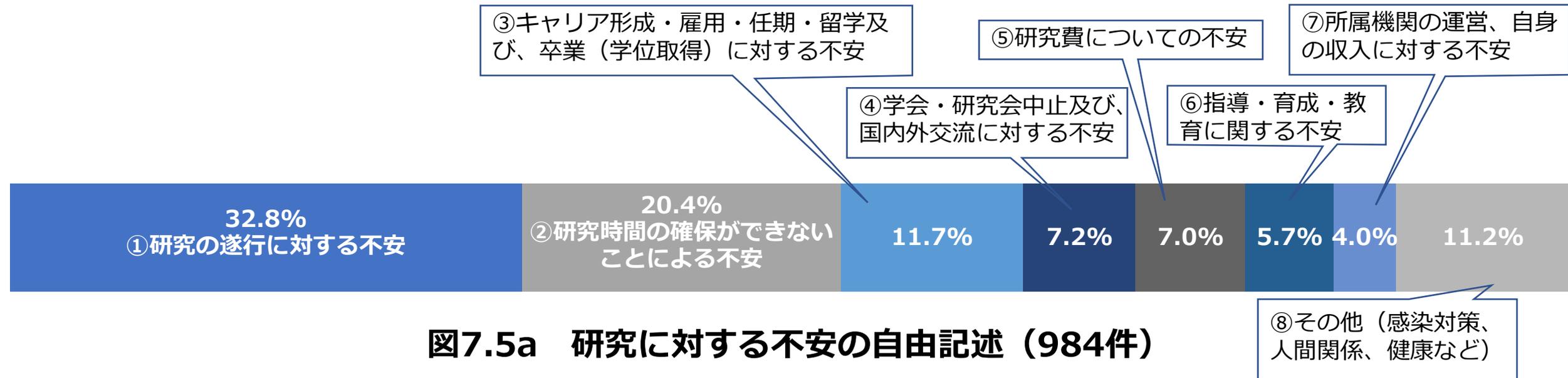


図7.5a 研究に対する不安の自由記述（984件）

① 研究の遂行に対する不安では「移動の制限によるフィールドワークの中断」が最も多く、次に「施設や機器、また研究内容の制限による研究の継続や質に対する不安」の記述が多かった。

② 研究の時間の確保ができないことによる不安では、感染対策の業務、遠隔授業の準備、家事・育児・介護の増加を訴えるものが多かった。

緊急事態宣言後の変化（教育）

設問8.1 現在の教育に費やす時間を教えてください



図8.1 教育に費やす時間

設問8.2 現在の教育の内容について教えてください



図8.2 教育の内容

設問8.3 現在の教育の質について教えてください



図8.3 教育の質について

過半数は教育に費やす時間が増え、教育内容を変更したと回答しているが、教育の質は低下したと回答している。

2020年7月

男女共同参画学協会連絡会

(copyright © 2020 EPMEWSE)

一切の無断転載を禁ず

設問8.4 教育に対する不安はありますか



図8.4 教育に対する不安

・教育に対する不安は回答者の84.6%が抱いている。

8.4a 教育に対する不安と質のクロス解析

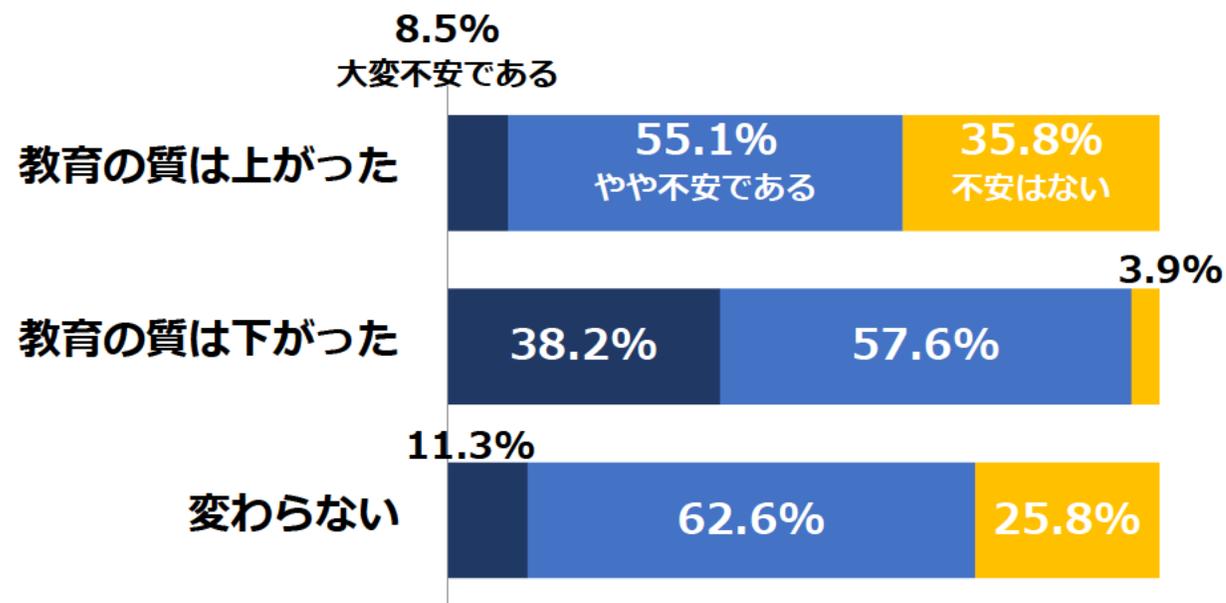


図8.4a 教育の質と教育に対する不安

・教育の質が下がったと回答した人ほど不安が大きい。

設問8.5 教育に不安があると答えた方はその不安は何ですか（複数回答可）

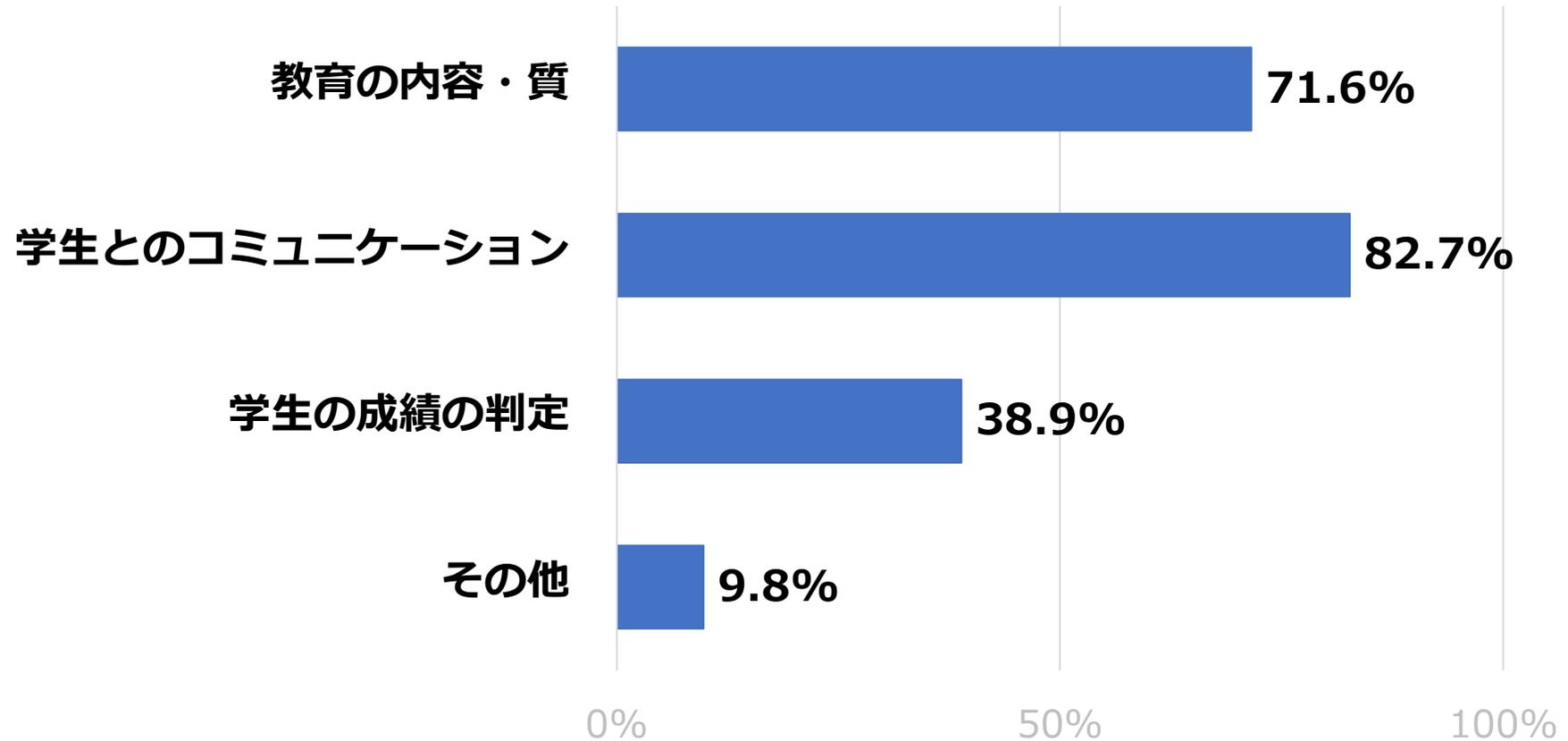


図8.5 教育に対する不安の内容

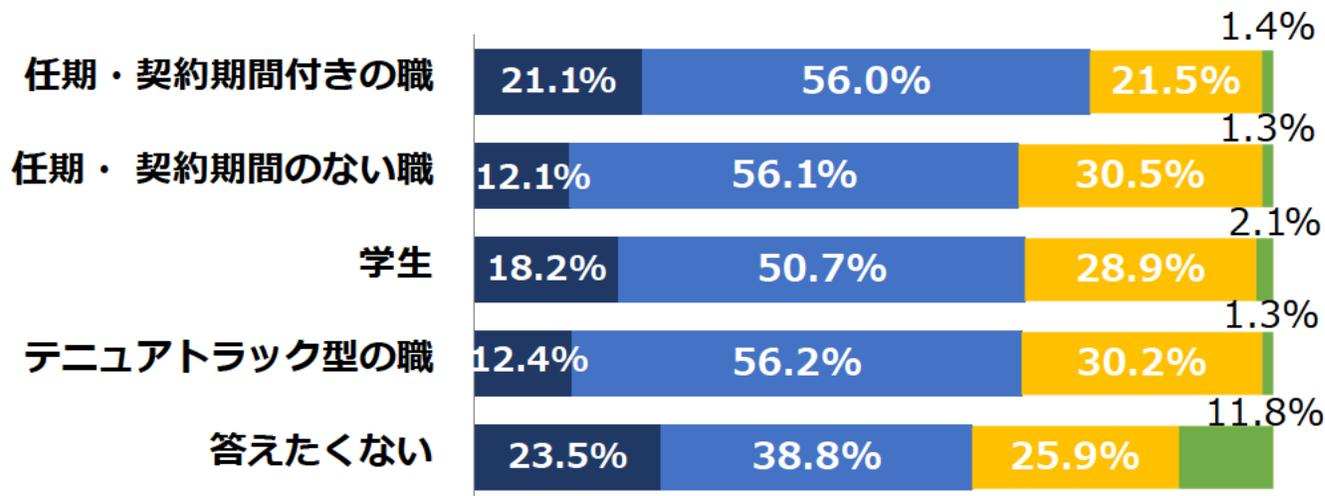
緊急事態宣言後の変化

設問9.1 研究や教育以外の生活についての不安はありますか



図9.1 研究や教育以外の生活についての不安

9.1a 研究や教育以外の生活についての不安と雇用形態によるクロス解析



・ 研究や教育以外の生活については任期・契約付き職が最も不安を感じており、次に学生が多い。

・ 不安定な立場である任期・契約付き職と学生では、研究生活においても私生活においても不安が強い。

図9.1a 研究や教育以外の生活についての不安（雇用形態別）

設問9.2 研究や教育以外の生活についての不安があると答えた方はその不安は何ですか（複数回答可）

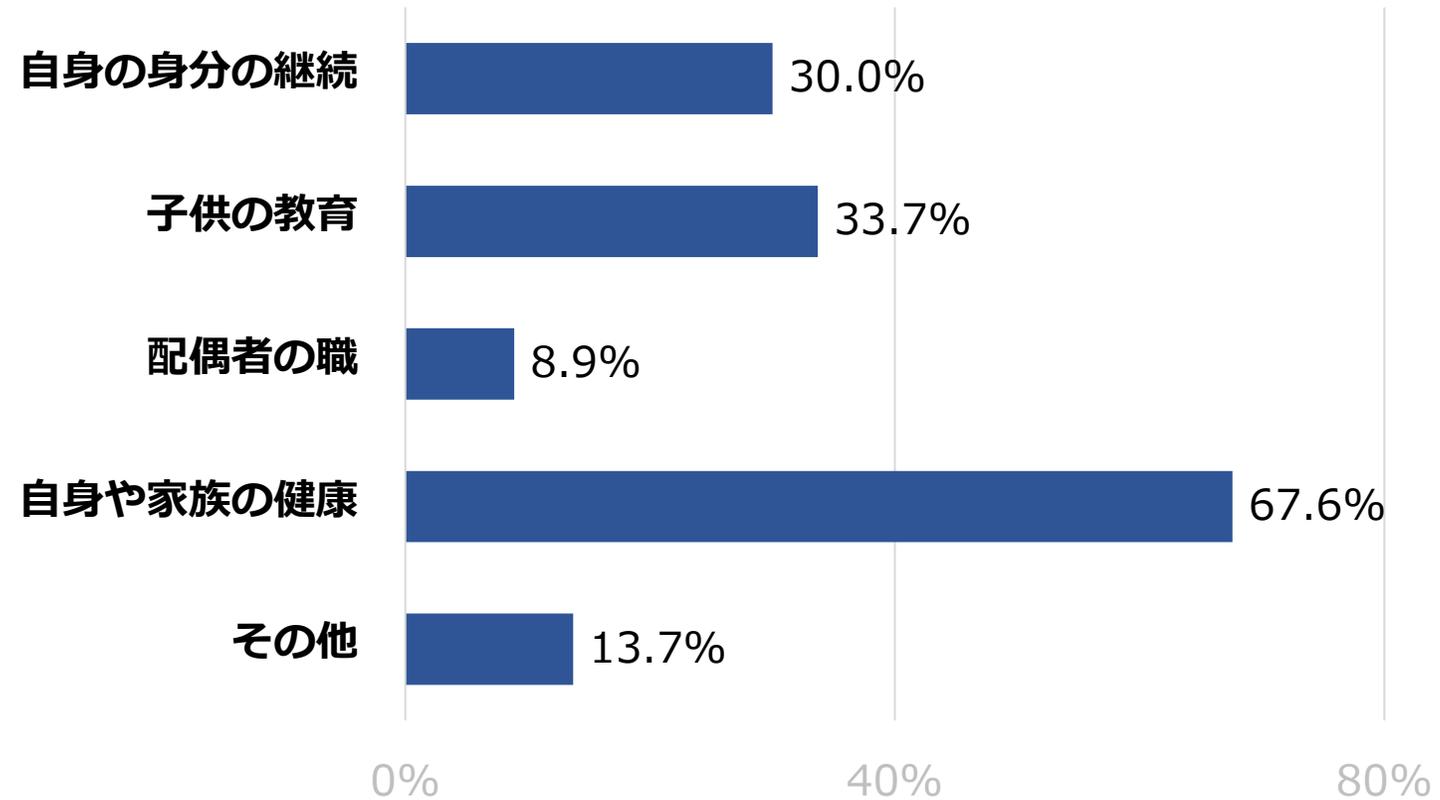


図9.2 研究や教育以外の生活についての不安の内容

設問10 現状における勤務上の支障について教えてください（複数回答） と性別とのクロス解析

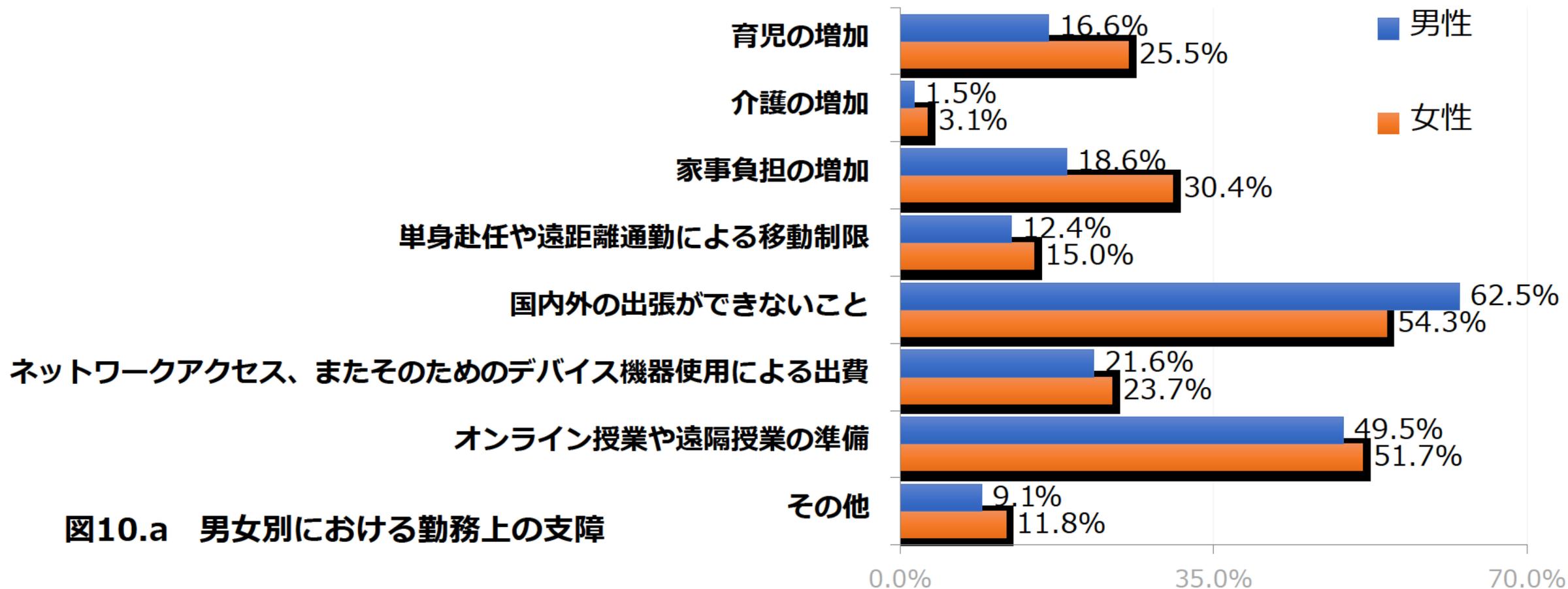


図10.a 男女別における勤務上の支障

- ・男女とも、出張の制限による支障が深刻である。
- ・家事・育児の負担は男性より女性の方が特に多く選択している。

設問11 今回の状況において要望したい支援を教えてください（複数回答） と性別とのクロス解析

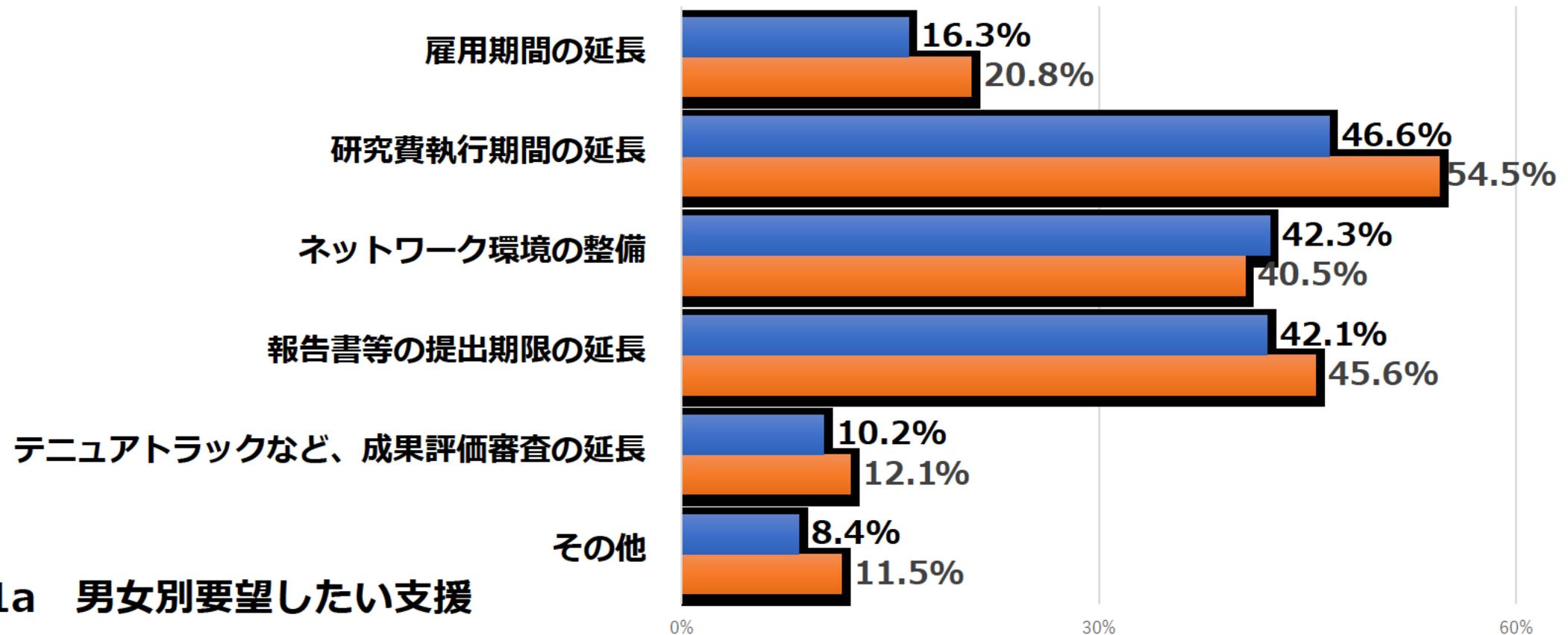


図11a 男女別要望したい支援

- ・男女とも、研究費執行期間の延長が最も多く選択された。
- ・雇用期間も含め、期間の延長を望む声は女性の方がより多い傾向にある。

設問12 今後要望したい勤務制度や支援策について教えてください（複数回答） と性別とのクロス解析

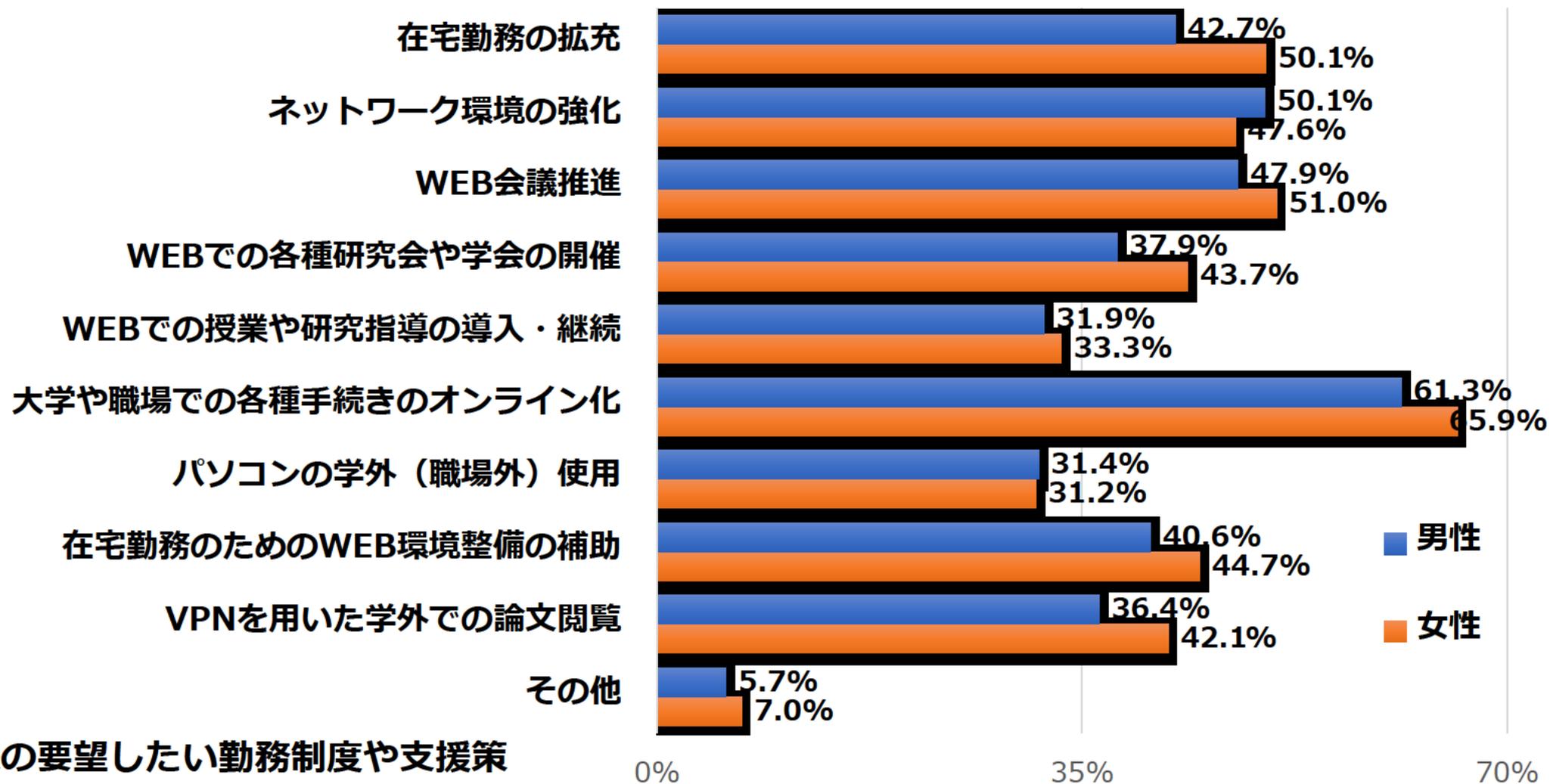


図12a 今後の要望したい勤務制度や支援策

設問13 今後の働き方改革として、通常時にも在宅勤務を導入して欲しいですか（複数回答）

設問13と性別、同居の有無のクロス解析

2020年7月

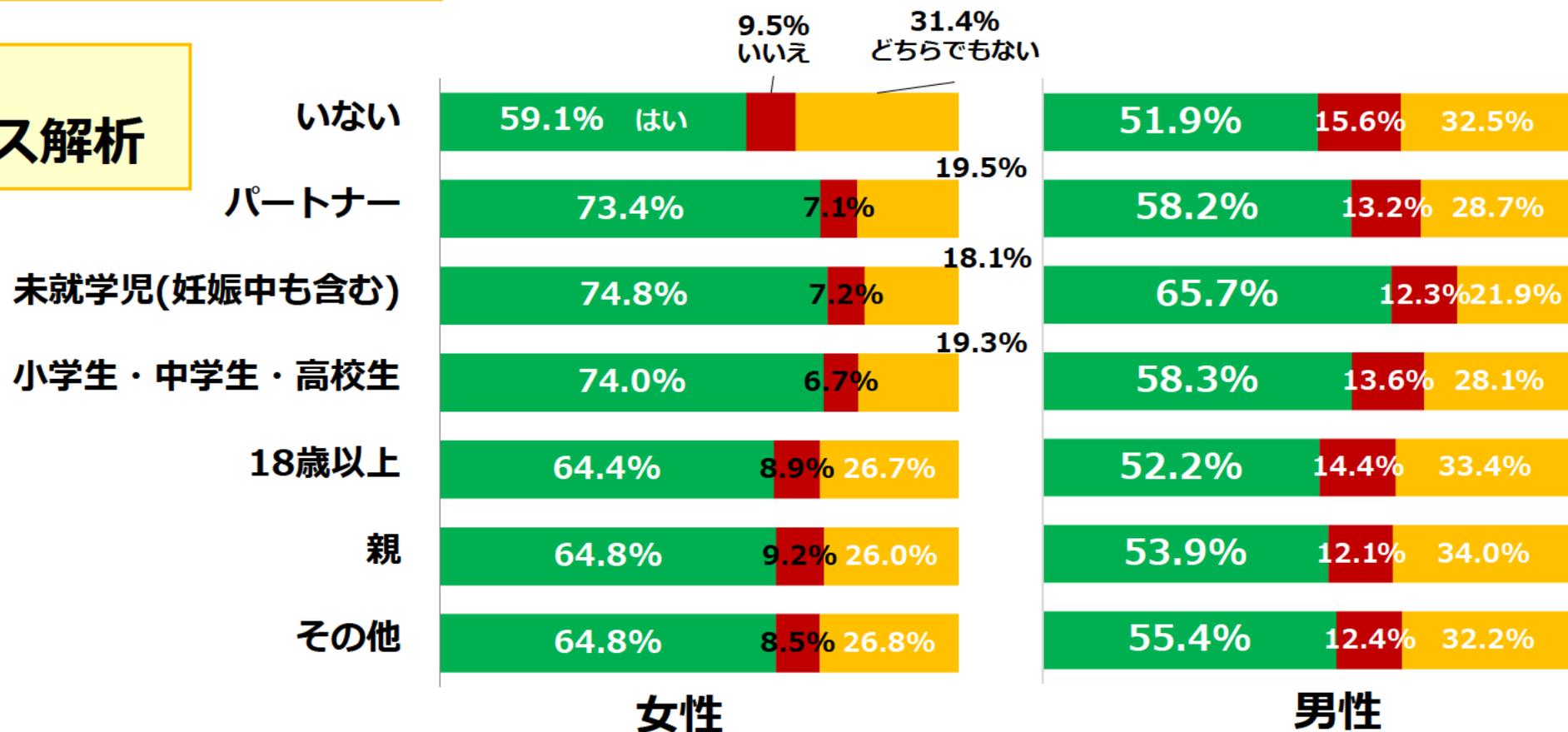
男女共同参画学協会連絡会

(copyright © 2020 EPMEWSE)

一切の無断転載を禁ず



図13 在宅勤務を導入したいか



- ・すべての群において女性の方が男性より在宅勤務を希望する割合が高い。
- ・女性ではパートナー、未就学児、小・中・高校生をもつ回答者の70%以上が在宅勤務を希望している。また男性も未就学児を持つ回答者の65.7%は在宅勤務を希望している。

まとめ

- 緊急事態宣言によるさまざまな制限から、回答者の約8割が今後の研究や教育に不安を抱いていることが示された。
- 任期・契約期間付き職や学生は特に不安が大きいことも示された。
- 教員の立場からは学生指導が十分行えないことの不安をあげる人が8割を超えた。
- 緊急事態宣言により家事・育児の負担が増えたことが勤務の支障となっていると答えた人は、女性に多かった。

学協会連絡会から国や研究機関への要望

1. 研究費の執行内容の柔軟な変更、使用期間の延長や報告書提出期限の延期などの迅速な対応。
2. 任期・契約期限付き職に関しては任期期間の延長を、学生や帰国を余儀なくされたものには雇用の支援策を実施。
3. ネットワーク環境の強化を行い、WEB会議やWEB学会を推進。
4. 在宅勤務の拡充を推進し、大学等の職場での各種手続きのオンライン化の促進。
5. 女性の家事・育児の負担増を解消するような意識変革の働きかけを積極的に推進。